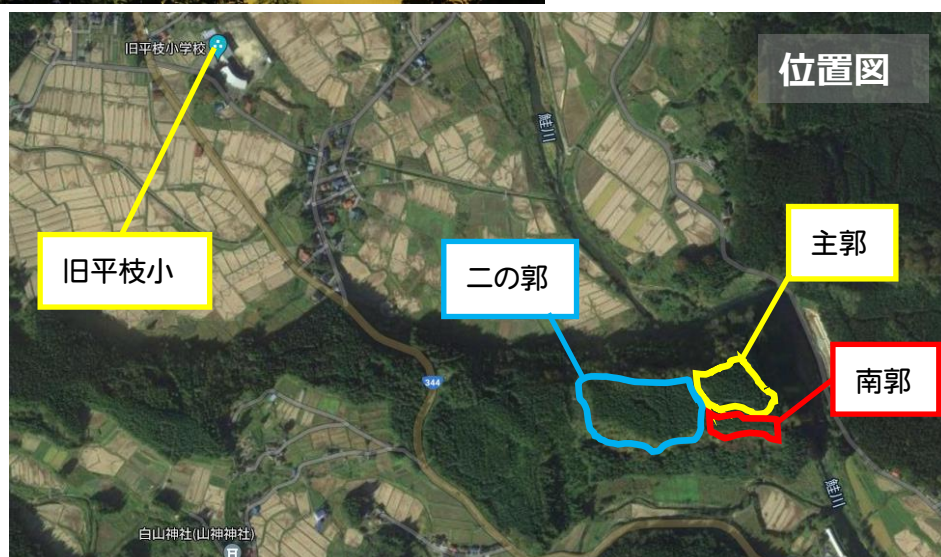


⑤ 差首鍋館跡

差首鍋館跡から見た大平・大池地区



参考：山形県中世城館遺跡調査報告書(山形県教育委員会)

【メモ】

沓沢玄蕃によって戦国期に築城された主郭と副郭からなる複郭式城郭で、西川と大沢川の合流地点北西に大きく舌状にはりだした台地に築かれており、北・東・南の三方を断崖絶壁に囲まれた天然の要害に恵まれている。

初代館主の沓沢但馬忠久は、近江の沓沢庄から最上氏を頼ってきて、この地を賜った。しかし、沓沢掃部介忠国の時代になると、最上義光の攻撃により、滅ぼされた。嫡子兵庫助忠家がその跡を継ごうとしたが、幼少のため、その代わりとして、野崎館の家老であった沓沢玄蕃が居住したという。

なお、東斜面に「穴から首を差し出し、鍋を大沢川に下ろして水を汲み上げた」という地名伝説があるほか、南斜面にも出水所跡地の伝承が残されている。

※山形県中世城館遺跡調査報告書(山形県教育委員会)から引用